

オージーの新世界

オーストラリアドル(オージー)が先週、対ドルでパー(1)を越えた。史上最高値だ。オージーが1台で表記されると何か変な感じだ。かつてのカナダドルのように1ドルいくらとレートの表記方法が変わったのかと錯覚する。

オージーには個人的に思い入れがある。オージーが固定相場制から変動相場制へ移行したのは83年だが、そのとき、変動相場制への以降後のオージー高を見越して何度もポジションを取った。

だがオージーは変動相場制へなかなか移行しなかった。市場のロングポジションはたまり、当局が変動幅を維持するためオージー売り介入を続ける。そのため変動幅の上限に張り付いていたレートが下限近くまで触れてしまう。変動相場制への移行は見送られるのではないかと、この市場の見方が台頭する。ポジションを切る。ロスカットだ。

結局何度か同じ事を繰り返して、オージーのロングポジションをあきらめた。すると翌週、当局はオージーの介入を止め、オージーは上昇の勢いを強め、新たな世界に入った。

そのときに所属していた米銀の主だった本支店の中で、このチャンスを生かせなかったのは私がチーフディーラーをしていた東京だけだった。

外為市場ではこれまでドル、ユーロ(マルク)円、ポンド、スイスフランが主要通貨と位置づけられ、取引量もその順番であった。だが今年の調査で、オージーがスイスフランを抜き、主要通貨の一角に食い込んできた。準備通貨としての需要も同様に増えている。

米国など先進諸国が金融政策で試行錯誤を繰り返す中で、オージーの対ドルパー超えはオージーが単なる資源国通貨だけに留まらない通貨に成長してきている表れでもある。パー超えの定着には時間がかかるかもしれないが、オージーが再び新たな世界に入った可能性は高い。